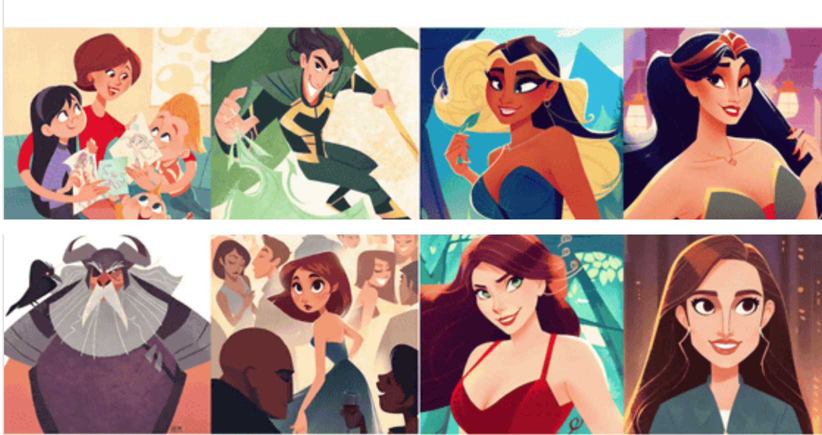
2022年11月02日 21時15分

ソフトウェア

画像生成AIで画風や絵柄を再現できる「Dream Booth」で実際にAIモデルにされた著名イラストレーターとAIモデルの作成者自身にインタビューした貴重な記録



Stable DiffusionやDALL・E2のような画像生成AIは、ニューラルネットワークの学習のために大規模な画像データセットを使っています。しかし、こうしたデータセットに含まれる画像は著作権の問題をクリアしていないケースが多く、問題視する声もあがっています。そんな中、自分のイラストがAIモデルの追加学習に勝手に使われたというイラストレーターと、そのモデルの追加学習を行った本人へのインタビューが公開されています。

Invasive Diffusion: How one unwilling illustrator found herself turned into an AI model - Waxy.org
https://waxy.org/2022/11/invasive-diffusion-how-one-unwilling-illustrator-found-herself-turned-into-an-ai-model/

勝手に追加学習に使われたのは、さまざまな作品のキャラクターデザインを務めるプロのイラストレーターであるHollie Mengert氏です。Mengert氏はある日、友人やファンからオンライン掲示板サイト・Redditに立てられた以下のスレッドのリンクをメールで受け取ったとのこと。

ブロックされました。 詳細

このスレッドでは、MysteryInc152を名乗るユーザーがMengert氏のイラスト32枚を使い、既存のAIモデルに追加学習を施せる「**Dream Booth**」を使い、Mengert氏の画風や絵柄を再現できるAIモデルを作成しました。しかし、MysteryInc152の投稿をきっかけにRedditでは大きな議論が巻き起こりました。問題のスレッドには「合法かどうかにかかわらず、何千人もの人々がMengert氏の画風を正確にコピーできるようになったとして、Mengert氏自身はどう感じるだろうか」というコメントもついています。

ブロックされました。 詳細

そこで、ソフトウェアエンジニアのAndy Baio氏は実際にMengert氏にアポイントメントを取り、インタビューを行いました。Mengert氏は「この話を始めて聞いたとき、私は自分の名前がこのAIに載っていることが不審に思えました。もし、こんなことをしていいかと聞かれたとしても、イエスとは言えなかったでしょう」と述べています。

そもそも、Mengert氏がたとえすべての画像の使用を許可したくても、Mengert氏の一存では許可できない状況だったとのこと。AIの追加学習に使われた画像はディズニーや**ペンギン・ランダムハウス**のために制作されたものであり、画像の権利はMengert氏になかったそうです。そのため、Mengert氏の画像で追加学習していいかどうかの判断はMengert氏自身でも下せなかったというわけです。

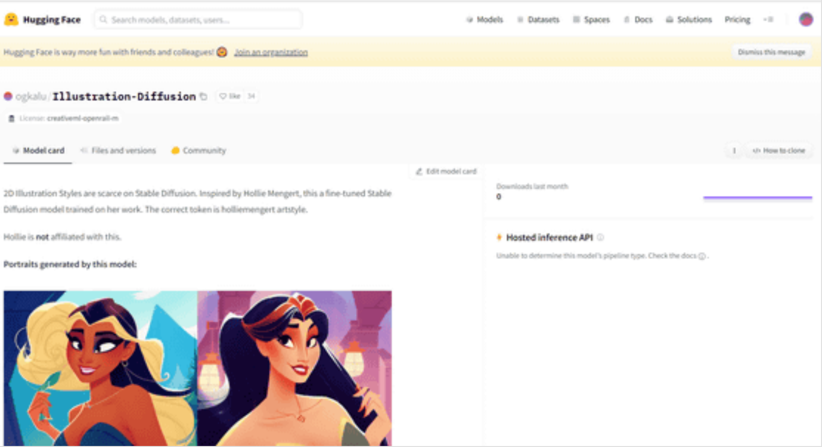
Mengert氏は、AIモデルが生成したイラストが自分の作品の個性を表現していないと思ったそうで、「AIはブラシの質感や筆致を模倣し、色や形を抽出することができますが、それが必ずしもイラストレーターやデザイナーが仕事を得られる理由にはならないでしょう。筆致や色彩は、アートの中でも最も表面的な部分です。人々が最終的にアートで共感するのは、愛すべき、親しみやすいキャラクターだと思うのです。そして、AIがそれに苦労しているのを目の当たりにしています」と述べています。

また、Mengert氏は「私ならこう描くという判断をAIが下しているとは個人的に思えず、生成された結果との隔たりを感じてしまいました。私のスタイルを模倣しているわけではないのに、私の名前がツールの一部に含まれているような気がして、それが不満でした」と述べ、「このAIを作った人は、私を人間ではなくブランドか何かのように考えていたような気がします。なぜなら、私の描いたイラストが私の人生や経験を反映したものだと考える人であれば、こんなことはやっていないと思うのです。私にとって一番大きな意味を持つのは、私の名前が使われていることです。なぜなら、クリエイターとして様式化されたイメージとして、自分の名前が使われているのはとてもうれしいことだからです。しかし、こういった形で自分の名前がついていることは、結局私にとって非常に不快で侵略的なことなのです」とコメントしました。



一方で、Baio氏はAIモデルを作成したMysteryInc152にも連絡を取りました。MysteryInc152の正体はナイジェリア出身・カナダ在住のエンジニアであるOgbogu Kalu氏。ファンタジー小説やサッカー、漫画やアニメが好きで、画像生成AIの技術にも興味を持っているとのこと。

実は、Kalu氏はMengert氏の作品に詳しくなかったそうです。もともとはRedditでMengert氏の画像とDream Boothを使って追加学習を行っていたユーザーが別にいたそうですが、そのユーザーの作業があまりうまくいってなかったため、Kalu氏が画像セットを改良して調整を行い、あらためてリリースしたとのこと。



Kalu氏はRedditでの議論で、「道徳に基づく議論などありえません。それは恣意(しい)的に制限するものです。あなたが正しいと思うか間違っていると思うかはどうでもいいのです。Stable Diffusionを使って今日の業界の破壊に貢献するかしないかです。Stable Diffusionを使えると思っても、自分が描いたおかしな架空の線のせいで『善人』になってしまう人は、自分を欺いています。機能的な違いはありません」と述べています。

Baio氏がこの意見についてKalu氏に尋ねたところ、Kalu氏は非常に現実的な見解を示したそうです。Kalu氏は学習にイラストを使用することは合法で、法的にフェアユースと判断される可能性が高く、著作権で絵柄を保護することはできないと考えているとのこと。また、Stable Diffusionは写真や絵の画風を忠実に再現出来ますが、元の画像はStable Diffusionに保存されておらず、データセットのデータは100TBを超えるにもかかわらず、AIモデルのデータ自体は4GBで済んでいるとも主張しました。

しかし、Baio氏が「フェアユースであれば、アーティストがどう思うかは法律の観点から見れば関係ないでしょう。しかし、アーティストがこのAIを気に入らない時に、自分たちの作品がどのように使われるかについて発言権を持つべきだと思いますか？」とたずねたところ、Kalu氏は少し考えてから「ええ、それは……それは違います。場合によると思います。このケースは、アーティスト自身の作品を直接使用して彼らに取って代わるという意味とはちょっと違います」と述べたとのこと。

Kalu氏は、「今回のケースで反対の声を挙げている人の多くは、コラージュのように作品をつぎはぎしていると勘違いしていますが、新しいイメージを生み出しているのです。それは過去の鮮やかな記憶を思い出そうとするような、変容的なものなのです」と述べ、「個人的には、この点が変革なのだと思っています。もしそうであれば、アーティストはAIモデルがどのように作成されるのかについて、本当に発言権を持っていないのではないでしょうか」とコメントしました。

その後、Mengert氏がAIについて快く思っていなかったことを知ったKalu氏は、Mengert氏の作品を追加学習したモデルの名前を「hollie-mengert-artstyle」から「Illustration-Diffusion」に変え、「Mengert氏はこのAIに一切関与していません」という文言をReadMeに追加したそうです。

この記事のタイトルとURLをコピーする

・関連記事

AIを用いて制作された絵画や彫刻作品の美術展がニューヨークのギャラリーで開かれる - GIGAZINE

画像生成AI「DALL・E」を開発する「OpenAI」と写真素材・ストックフォト最大手の1つ「Shutterstock」が提携し今後数か月以内に画像生成機能をユーザーに提供＆学習元素材の作者に報奨金を支払う仕組みの構築へ - GIGAZINE

「画像生成AIの対価を人間の絵描きは受け取っていない」と専門家が懸念、AIの発展の中で置き去りにされている問題点を鋭く解説 - GIGAZINE

イラストの作者が人間かAIか当てる激ムズクイズが登場、画像生成AI熟練編集部員による見分けポイントとは？ - GIGAZINE

Adobeが画像生成AIを開発中、「画像生成AIの透明性を確保してクリエイティブをサポートする」と発表 - GIGAZINE

gigazine.net/news/20221019-ai-data-laundering/

・関連コンテンツ

風景写真家がAI画像ジェネレーター「Stable Diffusion」で非実在美景を生成

まるで人間のアーティストが描いたような画像を生成するAIが「アーティストの権利を侵害している」と批判される

画像生成AIの著作権問題について海外や日本ではどのように解釈されているのか？

AIで作った「AI音楽」が流行、Discord上には2万人超が集まる人気サーバーも

フリーのイラストレーターなどが画像生成AIでお金を稼ぐ方法

「AIが生成したイラストの投稿禁止」をイラスト投稿サイトが次々に決定し始めている

AIで自分好みの美少女イラストを作れる「Waifu Labs」の開発者が「AIが俺の嫁を作る方法」を解説

ぐちゃぐちゃになった顔をスローで展開するシュールなポートレート集

<< 次の記事

ピリ辛カルビやチキンカツ＆チェダーチーズを米でがっつり挟んでボリュームたっぷりのマクドナルド「ごはんかるび」「ごはんチキン こく旨醤油仕立て」を食べてみた

前の記事 >>

中国独自の宇宙ステーション「天宮」を構成する最後のモジュール「夢天」の打ち上げとドッキングが完了

2022年11月02日 21時15分00秒 in ソフトウェア, アート, Posted by log1i_yk

You can read the machine translated English article here.



最新ニュース40件

- イギリスの経済誌「The Economist」が選ぶ「2023年の必読書」は？
- 毒素を体外に排出するとうたう「デトックス」の効果について専門家が解説
- アニメ「逃げ上手の若君」PV第1弾公開、鎌倉幕府の後継者・北条時行が逃げに逃げる
- Twitchが再び性的コンテンツに関するポリシーを更新し「二次元でも三次元でもヌードは禁止」に
- Wi-Fiで壁の向こうの人物や物体を特定する一部の研究には誤りがあるとの指摘、不正行為がまん延する研究分野に警鐘を鳴らす
- 「いろんな場所を訪れること」が精神疾患を持つ人の幸福度を上昇させるかもしれない
- 【予告】お祭り前の一波乱……新人・キユは営業勝負に勝てるのか？「ガス屋で〜す！！」第9話【先行公開】
- まるでソフトクリームに棒を挿したような柔らか棒アイス「ソフト君伝説のロイヤルミルクティー」試食レビュー
- 科学技術の発展で「男性の卵子」「女性の精子」が作れるようになった時に直面する課題とは？
- OpenAIの「超知性」誕生に備える研究チームがGPT-2のような弱いAIモデルでGPT-4のように強力なAIを制御する方法を詳しく説明
- 2023年12月15日のヘッドラインニュース
- 人工衛星インターネット「Starlink」を未改造のスマホで使うテストを通信当局が認可、840基の衛星を運用してデータを転送
- Googleがセルフサービス修理を可能にするPixel自己診断アプリと修理マニュアルをリリース
- Googleマップのアップデートで「犯行現場付近にいたユーザー」のデータを法執行機関へ提供することが不可能になる
- Amazonの衛星インターネット「Project Kuiper」が赤外線レーザーを使用し地上の光ファイバーケーブルより約30%高速なデータ通信技術の検証に成功
- GoogleがサードパーティーCookie廃止に向けてChromeユーザー3000万人で新機能「トラッキングプロテクション」のテストを開始
- Intel第5世代Xeon「Emerald Rapids」Platinum 8592+レビュー＆ベンチマーク公開